

利根川の昔と今

七郷小学校

五年

大滝

紗耶

わたしたちのみにかには、大きな川、利根川が流れていきます。そこでわたしは、利根川について知りたいと思いました。

利根川は、日本で二番目に長い大きな川で別名「坂東太郎」というそうです。意味を調べてみると、坂東とは関東を意味し太郎とは長男を意味していて、坂東（関東）で最も大きい川であり日本の川の長男へ太郎ということでした。

今の利根川は、江戸時代に徳川家康が利根川の水がいなどになくすために、工事をして太平洋に流れこむようにしました。昔は、東京ゆんの方まで流れていたそうです。なのでほんとうの利根川は、足立区やかつか区などに流れている中川という事だそうです。

わたしのあじいちゃんからきいた話によると、あじいちゃん小さいころは、まだこ

の近くの利根川には、土手がなかったらしいです。六十年、七十年くらい前に、大きい台風があきて川がはんらんしてしまいそのけいけんをいかして土手やぼうはていなどを、長年にわたり作ってきたそうです。昔なら利根川はうかあば水門はともよばれていたらしいです。今は、土手があるからめふきばしをわたらないと川がみえないけれど、昔は、川がまるみえだったのかなあと思うと、わたしは少しこわいきがしました。

めふきばしといえは、おいしいちゃんか昔の人は、千葉県へいくはしもなかったらしくふねを使って川をわたっていたんだとおしえてくれました。今は、はしがあり、あたりまにわたっていますか、昔は、本当に大変だったんだなあとあらためて思いました。

さいきんテレビをみると水がいのニュースをよよくみます。なかなか自然の力は、そういうじょうなことでだけだとは思いますが、どんどんぎじゅつがしんかして水がいのない

川にしてほしいなあと思いました。